

県民健康寿命

男性44位
女性43位

介護を受けたり寝たきりになったりせず、健康に日常生活を送れる期間を示す「健康寿命」。平均寿命との差が縮まると、医療や介護にかかる期間が短くなり、社会保障費の抑制につながることから注目を集めている。そんな健康寿命が徳島県は全国でも下位に低迷している。なぜなのか。

なぜ低迷

厚生労働省が3月に公表した2016年の健康寿命に関する調査では、徳島県は男性が71・34歳で全国44位、女性が74・04歳で同43位だった。10年から3年に一度行っており、13年調査では男性は最下位、女性は43位だった。

そもそも健康寿命はどう決めているのか。厚労省によると、国民生活基礎調査で「健康上の問題で日常生活が少ない」とから、

生活に影響がない」と答えた

人の割合、介護保険で要介護2以上の認定を受けてい

る人の割合などから算出

している。

農民の健康寿命が低い理

由について県健康増進課は

「糖尿病の死率が依然と

して全国平均と比べて高い

ことが影響していると考え

れている。自動車保有率と

利用率も共に高く、歩行す

で「健康上の問題で日常生活が少ない」とから、

運動不足によって生活習慣病になりやすいからではないか」としている。

県内のがん検診や特定健康診査の受

診率が高い60歳以上の有

料率(15年度)は61・2%

で、全国平均の45%を大きく上回る。

16年の健康寿命が都道府県別で最も長いのは、男性

山梨県の73・21歳、女性

は愛知県の76・32歳だつ

い」としている。

県内のがん検診率は全

くで、前回は男女共に1位だ

った。

山梨県はホームページで

運動不足について生活習慣

病になりやすいからではないか」としている。

県内のがん検診率は全

くで、前回は男女共に1位だ

った。

山梨県はホームページで

運動不足について生活習慣

病になりやすいからではないか」としている。